

追悼

佐藤昌先生を悼む

(社)日本公園緑地協会常務理事

伊藤 英昌

本学会名誉会員、(社)日本公園緑地協会名誉会長佐藤昌先生が7月19日ご逝去されました。「ももとせの 長きこの世の越し方を 書きとどめたる百歳譜」巻頭にこの辞を置くご執筆を前日まで続けられ、その朝もゴルフの全英オープンをTV観戦され、眠るが如くに目を瞑られたとのことであります。

お別れの会は当公園緑地協会、都市計画協会など関係6団体合同により青山葬儀所で進士本学会会長などの弔辞と多くの都市計画、造園関係者の参列献花によりしめやかに行われました。

先生は昭和2年東京帝国大学農学部農学科をご卒業、内務省復興局に入り、日本橋浜町公園の現場で、爾来76年に及ぶ都市計画、造園界への第一歩を印されました。

戦前には、満州新京、ハルピンの新興気運溢れる中でシビックセンターや新宮廷の整備に、戦後建設省都市局施設課長時代には、都市計画施設である公園緑地の改廃が頻発し、これを心配した鶴海良一郎都市計画課長と共に都市公園法制定に尽くされました。

先生は行政・研究・教育・計画・設計施工と幅広い分野の理論と実務の両面でご活躍されました。退官後は、専門分野はもとより、少々の量では好い気持ちにならないと言われたお酒、白寿でのプレーを目指そうと白楽会を主宰され自ら第一号達成者となられたゴルフなどと飾らぬ温かいお人柄を通じての幅広い交流の中で、尊敬する飯沼一省会長のもと20年にわたり都市計画協会の常務理事を務め都市計画会館の平河町移転など協会活動の基盤を強化しその発展に尽力されたのをはじめ当協会、建設研修センター、造園学会、造園建設業協会、都市緑化基金、ランドスケープコンサルタンツ協会その他数多くの機関、団体の長、役員として卓越したリーダーシップと経営、運営の才を



故 佐藤 昌 氏

本会の名誉会員 佐藤 昌氏には

平成15年7月19日永眠されました。

ここに慎んで哀悼の意を表します。

社団法人 日本都市計画学会

発揮され、それぞれの発展隆盛に多大な貢献をされました。36年国際造園家連合副会長にご就任、日本での世界大会開催を成功させたのをはじめ、リバプール国際園芸博や多くの国際博に、日本文化の象徴としての庭園出展を推進されました。これらの活動は海外で高い評価と信頼を得、大阪花博開催とその成功の原動力になり、本学会の国際交流賞も受賞されております。平成2年には第一回「全国みどりの愛護のつどい」が大阪花博会場で両陛下ご臨席のもと催された折にはご説明、ご先導役を務められるなど公園・造園関係の大きな催事では常にトップとして指揮をとられました。先生は多くの著作を残されました。私が「先生は好奇心がお強いのですね」と申し上げたら「詮索好きなんだ」と言っておられました。学生時代「音楽評論家」を志された折に収集した80冊ほどの図書は東大図書館に「ベーターベン叢書」として残されているそうです。造園を天職とされた折に、英国の風景式庭園様式は中国庭園の模倣であ

るとの説を見出し、欧州各地の中国風庭園建設の経緯を調べた大学ノート10冊ほどのメモをもとに考究を重ね、60年後に上梓されました、ご自身が最も苦勞した自信作であるとされる「圓明園」や「日本公園緑地発達史」など実に多くの造園に関する歴史をご研究、著されました。いずれも後輩、研究者にとって貴重な道標となるものであります。天性でありましょう「詮索好き」と断ゆることのなかった旺盛な学究心の成果なのだろうと思っております。

お別れの日、その作品批評を「音楽新潮」に紹介した、当時の新進作曲家であったリヒャルト・ストラウスの「ツアラトストラは斯く語りき」が奏でられる中大きな波のような白菊につつまれて「私個人としては、わが国の造園界において、また、都市計画の分野において、少なくとも学術と事業の面で少しは後世に残る仕事をしてきたという自負は持ち合わせている」と遺された百年に垂んとするそのご活動を終え旅立っていかれました。

佐藤 昌先生の御業績

日本都市計画学会長

東京農業大学長 進士 五十八

本会名誉会員農学博士佐藤 昌先生は、平成15年7月19日にご逝去された。先生の本学会ならびに斯界の発展への多大なるご貢献に心から感謝申し上げますと共に、学会を代表して謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

先生は東京市京橋区で明治36年10月2日のお生まれ、あと2ヶ月余で満100歳であった。今年6月1日はわが国最初の近代洋風公園である「日比谷公園」開園百周年であったし、8月28日は世界の近代造園の発祥、ニューヨークのセントラルパークを設計、自ら「ランドスケープ・アーキテクト(造園家)」第一号を名乗った Frederick Law Olmsted(1822-1903)の没後百年であり、尚一層「日本公園緑地界の巨星お墮つ」の感を強くする。

先生のご略歴は次の通り。

大正12年3月 第八高等学校卒業

昭和2年3月 東京帝国大学農学部卒業

昭和2年4月 内務省復興局
 昭和14年1月 満州国技正
 昭和18年12月 内務省内閣技師
 昭和21年5月 神奈川県土木部計画課長
 昭和24年9月 建設省都市局施設課長(～昭和31年12月)
 昭和32年1月 財団法人都市計画協会常務理事
 昭和34年4月 東京農業大学嘱託教授(造園学科、～昭和49年3月)
 昭和36年7月 IFLA(国際造園家会議)副会長
 昭和38年5月 社団法人日本造園学会会長(昭和44年5月名誉会員)
 昭和40年1月 株式会社都市計画研究所代表取締役社長(昭和58年10月会長、平成13年10月相談役)
 昭和43年5月 社団法人日本公園緑地協会副会長(昭和56年5月会長、平成3年6月名誉会長)
 昭和49年5月 社団法人日本都市計画学会名誉会員
 昭和52年8月 財団法人日本修景協会会長(平成3年6月名誉会員)
 昭和56年4月 財団法人都市緑化基金理事長
 昭和60年4月 社団法人日本造園コンサルタント協会会長(昭和61年5月ランドスケープコンサルタンツ協会名誉会長)

その間、歴史的風土審議会、神奈川県都市計画審議会、東京都公園審議会、世田谷区自然保護審議会など各種審議会委員や会長を歴任。

昭和61年4月には勲二等瑞宝章を受章。

およそ先生の前半生は、都市計画、特に公園緑地行政に全力を尽くて来られたと言えるし、後半生は、前歴との関係での各種団体の指導者としての公益活動はもとより、ご逝去直前まで執筆を続けられたことでもわかるように、単行本だけでも生涯50冊ちかく、論文多数の研究と著述生活、東京農業大学教授としての教育、そして自ら経営された都市計画研究所を舞台としての計画設計調査などランドスケープ・コンサルタンツ業務、その職能の発展と定着のために多大な貢献を果されたと言える。

なお先生の前半生で特異なのは、いわゆる満州

国において、例えばハルビン特別市の土木科長、新京特別市の営繕科長、公園科長、他方で新京緑地協会・満州緑地協会常務理事をつとめるなど、日本国内で実現できなかった理想の公園づくり活動を実践されたことである。現、中国長春市の緑のストックは正にこのときに築かれた佐藤先生の空間遺産である。

また行政マンとしては、「都市計画調査資料及計画基準ニ関スル件」（内務次官通達・1933）や「特別都市計画法」「緑地計画基準」（1946）、「都市公園法」（1956）に関係して、いわゆる計画行政の推進と公園緑地行政の基礎づくり、また草創期の本学会の運営にも大いに力を尽されたわけである。

しかし何と言っても先生のご業績の中心は膨大な著作とそのためのご研究にある。

東京農業大学で先生が「公共緑地学」を講じておられた頃、私は「若い頃は、音楽家になりたかった」というお話を伺ったが、学生時代は庭園史をやりたかったとのこと。そのためかどうか、先生は公園はもちろん、好きなゴルフ場、それに庭園、墓地などに関するたくさんの歴史的著作を公刊しておられる。

代表的著作は次の通り。

公園緑地制度の研究（英国篇）1953

同（米国篇）1955

世界の公園（写真集）1957

欧米公園緑地発達史1968

道路と造景1969

オープンスペースと自然の作用（D. ウォレス、訳書）1972

自然保護と緑地保全1972

土地とランドスケープ（V. コルビン、共訳書）1973

日本公園緑地発達史（上下2巻、東京農大への農学博士学位論文—昭和57年日本農学賞、読売農学賞受賞論文）

フレデレック・ロー・オルムステッド・その一生と業績1980

オープンスペース（A. ヘックシャー、訳書）1981

満州国造園史1985

えん園や治研究1986

中国墓地史1987

西洋墓地史（Ⅰ、Ⅱ）1988

圓明園1988

中国造園史（全3巻）1991

噴水史研究1999

世界のゴルフコース発展史2001…

誌面の関係で、業績のすべてに触れることは不可能であるが、近代日本のオープンスペース研究の第一人者として、またその偉大な実践者として「佐藤 昌」の名は永らく歴史にとどめられることだろう。